

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	職員一丸となり理念に基づき日常生活の中で体操、下肢運動など筋力低下防止に努め、地域やのびやか保育所との交流に積極的に参加している。また、月の介護目標を立て職員一人ひとり意識を持って取り組んでいる。	ホーム独自の3項目の理念に沿って話し合い、「自尊心を大切にし敬う心でお付き合いよう」「本人の意志を確認し行動しよう」の介護目標をかかげている。毎月の職員会議で介護目標について話し合い振り返りの場を作り実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	年2回ふるさと通信の新聞を地域の方に配布し生活の様子を理解していただき相互間の行事を声掛けし気軽に交流できる様努めている。	重要事項説明書に地域との結びつきを大切にしている文言が書かれている。日常的に地域の人と一緒に芋煮会やクリスマス会、そば会、保育園との交流、など行事を楽しんでいる。ホームの新聞や催し物の案内など地域の回覧でお知らせされ理解が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	苑で行事を開催し地域の方々に参加を促し利用者さんの生活の様子を理解して頂く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度開催し各々の立場より意見を頂き参考にし職員全員で改善に努めサービス向上に努めている。	区長、地域包括、介護保険係り、家族の代表がメンバーになり定期的に行われている。一方だけの報告会にならないよう配慮している。避難訓練時の利用者への対応の仕方など意見が出され検討している。	
5	(4)	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GH連絡協議会に参加し意見交換し情報を得て協力関係を築く様努めている。	行政の係りが運営協議会のメンバーになっているため内容や課題について理解されている。質問や相談事項を準備し内容を深めている。GH連絡協議会にはスタッフが交代で参加している。介護相談員の訪問を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践している。	日中施錠していない。離設しやすい利用者の行動パターンを把握し見守りで防止している。管理者が虐待防止研修会に参加し職員に報告している。身体拘束について理解しており拘束しないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で理解し、日々業務に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センター担当者との連携を図り、必要に応じて活用できる様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時に十分説明し理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族に定期的にアンケート用紙を送付し要望、意見等を聞く事の出来る体制を作り運営に活かしていける様努めたい。	面会時などに寄せられた要望や意見は「お家族からの要望記入用紙」に書き込みし職員で共有している。今まで以上に意見や要望を引き出すために家族にアンケートを送付し回答してもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	定例会、申し送り時などで職員の意見を聞き、一緒に問題解決をしながら意欲を高める様努めている。	毎月の定例会で意見を出し合い情報を共有している。2ユニット合同で行うためお互いの利用者の情報や職員間の意見交換が行われよりよいケアに活かされている。法人には備品や設備の改善点など提起している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションを図り、職員の評価を適時行い、向上心を意識させるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月おきの院内研修が充実なものになる様事前に内容を把握し活かしている。苑内独自の勉強会を通しケアに活かせる様努めている。(朝の申し送り含む)		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回合同の院内研修の中で相互間の情報交換や他施設訪問の機会を作りサービスの向上に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様を見守りながら気づきが大切であり御家族の方の話も聴きながら本人様が安心出来る様声掛けし信頼関係作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の不安を取り除くよう変わらない対応で話をよく聴き信頼関係を築く様努める。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく話し合いをし納得したサービスの支援が出来る様努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の方と解りやすい会話の時間を設け支え合える関係作りを努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の様子を毎月おたよりをし行事の参加や、来苑時自室にてゆっくりといただける様配慮し本人様との関係を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が以前より行きつけの店、知人宅など継続出来る様連絡を取りながら利用して頂けるよう支援している。	入居時や「入居後の御利用者様の記録」などでこれまでの暮らしの把握をし、入居前の美容院に出かけたり知人宅やお盆お正月の外泊など行っている。墓参りにも行っている。家族や友人、知人の面会もあり訪問しやすい雰囲気を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の和を保つ様職員が何気なく言葉の橋渡しをしながらお互いの関係を築く様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も関係を断ち切らない方向で、在宅や施設サービスなどの情報を、出来る限り確認している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	利用者様の思い、希望が見える様会話を大事にし気持ちを読み取る様努めている。	家族や知人の面会時などに出された思いを記録しケアに活かしている。時には回想法の資料を準備し若い頃の思い出を語ってもらい利用者の思いや暮らし方を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方と本人様の話をよく聞き様子を見守る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様を見守り、見極めが大事であり急がずゆっくりと現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員との意見を共有し、その意見を反映した介護計画を作成している。	毎月の定例会でカンファレンスをやり支援の内容や達成の状況など話し合っている。3ヶ月に1回はモニタリング票に書き込み本人や家族の意見を聞き担当者会議で話し合い支援計画を作っている。必要に応じて見直しもやっている。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居後の御利用者の様子を作成し申し送り等で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問師による適切な看護により安心した生活の確保、また家族の方の協力により外泊、外出などで気分転換を図れる様に努めている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じ、ボランティアの方、介護相談員の方、消防、警察の方々等と協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様と家族の方が安心出来る治療の継続を考え意向を聞きながら希望の受診を支援協力している。	遠くの病院がかかりつけ医だった利用者には家族と話し合い協力病院にしてもらっている。職員が概ね同行しているが毎月受診報告をしている。家族同行受診の際は情報を伝えている。週1回訪問看護があり健康状態が把握され受診の際、情報提供されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録、受診記録との連絡を通し訪看護師と共有しその都度報告、相談しながらアドバイスを頂き支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間、医師、看護師との連絡を密にし本人様の状態を確認し情報交換や相談に努めている(御家族にも随時連絡を取っている)。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設として対応できる身体状態の変化を常にご家族と話し合いをしながら週1回訪看護師等に報告、相談をし協力医療機関と連携を図り職員全員が支援できる様共有している。	法人では「重度化対応・終末期ケア対応指針」が作成され家族に説明していることになっているが職員間で具体的な話し合いが行われていない。	医療連携体制加算、看取り介護の実施加算がとられているので職員間で具体的にどう対応するか話し合っ欲しい。その上で今できること、できないことなど明確にし家族の意見も取り入れホームの方針を作り上げて欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習の実施を予定している。		
35	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の代表者の方の協力による避難訓練を実施、反省を次の訓練に活かしていくことが出来る様職員全員が誘導等を習得出来る様努めている。	夜間想定で消防署立会いの下地域の方と一緒に合同防災訓練をやっている。区長ほか地域の方5人の参加で通報、避難誘導、消火訓練、煙体験、AED使用の心肺蘇生法なども行っている。昨年の外部評価の助言を受けて非常食も準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者様を○○さんとお呼びし自尊心を大切に「親しき仲にも礼儀あり」敬う心でお付き合いさせて頂く様努めている。	利用者が気持ちよく過ごせるようひとり1人に気配りして対応するよう心がけている。プライドを傷つけるような場面はなかった。個人の記録は外部の目にふれないよう適切に管理されていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意見を確認し要望に添う様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせ、希望に応じリズムある生活をして頂ける様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の個性を大事にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	職員と共に台所に立つ喜び、視覚、匂いなど感じながら食事が楽しいものになる様支援している。	食事の準備を手伝ったり、茶碗拭きやテーブル拭き、流し台掃除などそれぞれが分担して役割を担っていた。職員と一緒に食事を楽しんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の身体状態を考え、味や食べやすい大きさ等に気を付け、飲み物も負担のない様摂って頂く様努めている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し食後の嗽の声掛け就寝前のブラッシングと義歯洗浄剤にて義歯の手入れをし清潔に保って頂く様支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し利用者様のサインを見逃さず、さり気無く声掛けしトイレでの排泄の喜びを感じていただける様支援している。	24時間排泄チェックして排泄パターンを把握している。トイレで排泄したい気持ちを大切に、できるだけ布パンツ使用が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便パターンを把握し食物繊維の多い食材の工夫と十分な水分、腸の働きを促す適度な運動をする事で便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2ユニットと活かし毎日入浴出来る体制にしている。利用者様の身体に負担のない様安全に事故がなく気持ちよく入浴して頂く事を考え支援している。	ユニットごとに交代で午後1日おきの入浴支援をしているので毎日入浴も可能である。ゆっくりとリラックスできるようゆずや入浴剤を使ったりして楽しい入浴を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の生活のリズム、体調を見ながらカーテンの使い方、照明、室温、音などに配慮している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬によって症状の変化を見極め担当医に、報告相談をし本人様の心身共に良い状態を保てる様支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様が出来る事をやる事により満足感を持って頂き、本人様の希望に添える様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様が以前より、馴染みの店を利用し継続したお付き合いが出来る様支援している	散歩や商店街にコーヒ飲みに出かけたりする。家族の支援で外食やドライブ、お正月やお盆に外出や外泊をしている。なじみの美容院にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人で持っている方は家族の方に所持金を連絡し了解して頂き使える様支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族、友人の方々よりのハガキ、手紙など本人様の了解のもと代読、代筆を行い電話をかける時間を家族の方と話し使用していただいている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>四季折々の行事を感じていただける空間作りをし清潔感を保つ様になっている。</p>	<p>明るく日当たりのよいリビングにはひな壇飾り、植物があり、利用者の楽しげに活動している写真など掲示されている。ソファは利用者が集まりやすく配置され居心地のいい空間になっていた。トイレは異臭もなく清潔だった。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアスペース、畳スペースを自由に利用して頂いている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にしながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその</p>	<p>その物がある事により気持ちが落ち着き馴染みがあり大切な物、また安全性な物を持ってきて頂いている。</p>	<p>なじみのタンスや椅子が持ち込まれたり、写真や家族からの手紙が貼られていたり生け花があったりとそれぞれが個々人の部屋らしくなっていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>歩行の安全の為、手すりを設置し貼り紙や目印などを使用し声掛けしながら混乱のない様支援している。</p>		